

旭川市内におけるA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の警報発令について

令和8年4月2日(木)
旭川市保健所保健予防課
連絡先 26-1111 内線2980

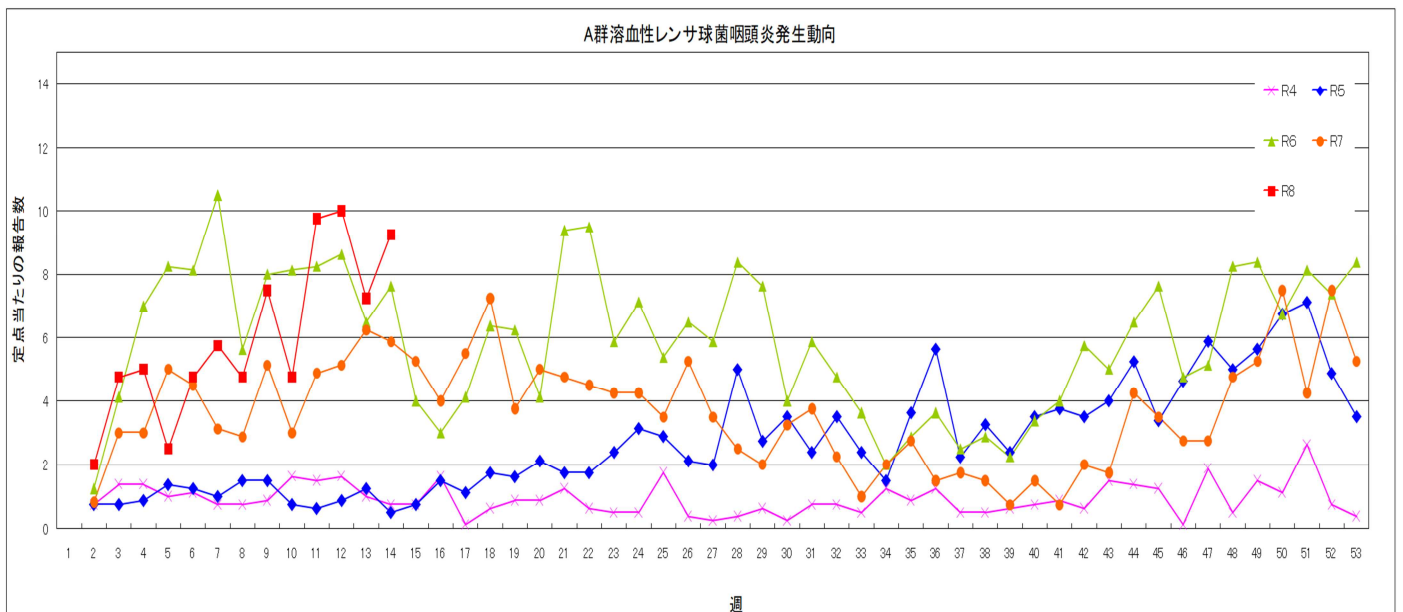
本市の感染症発生動向調査において、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎が流行発生警報の基準値を超えましたのでお知らせします。

1 旭川市内のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の流行状況

本市の感染症発生動向調査において、流行発生警報開始基準値を超える数値が令和8年第10週(令和8年3月2日～令和8年3月8日)より継続しており、市内で当該感染症が流行していると判断したため、令和8年4月2日にA群溶血性レンサ球菌咽頭炎流行発生警報を発令しました。

(本市の定点医療機関数：4医療機関)

○ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎流行状況



※流行発生警報：開始基準値 8、継続基準値 4

2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは

A群溶血性レンサ球菌による上気道の感染症であり、症状は、突然の発熱と全身倦怠感、咽頭痛によって発症し、しばしば嘔吐を伴います。通常発熱は3～5日以内に下がり、主症状は1週間以内に消失します。また、舌が莓のように赤く腫れたり、全身などに発疹が出ることもあります。

3 潜伏期間

2～5日

4 感染経路

感染経路は人から人への飛沫感染や接触感染が主ですが、食品を介する経口感染もあると言われています。

通常は患者との接触を介して伝播するため、人と人との接触の機会が増加するときに発生しやすく、家庭、学校、幼稚園、保育園などの小児の集団生活での感染も多くなります。

感染性は急性期に最も強く、その後徐々に减弱します。無症候性病原体保有者も存在しますが、症状のない保菌者からの感染は稀であると考えられています。

5 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の予防

- (1) こまめな手洗い、うがいをしましょう。
- (2) 症状があるときは、マスクをして咳エチケットを心がけましょう。
- (3) 患者との濃厚な接触は避けましょう。

6 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎にかかってしまったときは

- (1) 早めに医療機関を受診しましょう。医師の指示に基づいて、適切な治療を受ける必要があります。
- (2) 症状が強く出ている時は安静にし、水分を十分に補給して脱水を防ぎましょう。
- (3) 症状があるときは集団などへの参加は控えてください。
- (4) 家族が患者と接するときは念のためマスクを着用し、こまめに手を洗いましょう。

7 保健所の対応

市内医療機関、幼稚園・保育所、学校等に対する情報提供及び注意喚起を行います。

【参考】（A群溶血性レンサ球菌咽頭炎警報とは）

厚生労働省・感染症発生動向調査事業の一環として、小児科定点医療機関を受診したA群溶血性レンサ球菌咽頭炎患者数を週ごとに把握、集計し、過去の発生状況をもとに基準値を設け、保健所ごとにその基準値を超えると警報が発令されるシステム。

警報は大きな流行の発生、継続が疑われることを示します。

発令基準は、1定点あたりの受診患者数が8人を超えた場合に発令され、警報発令後は1定点あたりの受診患者数が4人を超えると警報が継続されます。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎についての詳細は、国立健康危機管理研究機構感染症情報提供サイトのホームページでご覧になれます。(https://id-info.jihs.go.jp/infectious-diseases/group-a-streptococcal-infection/index.html)

全道のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の流行状況は北海道感染症情報センターのホームページでご覧になれます。

(http://www.iph.pref.hokkaido.jp/kansen/602/map.html)